リレーおぴにおん

小5から中3は脳の黄金期

子どもと受験 8

2010 7/29 A

タレント
高田（たかた） 万由子（まゆこ）さん（39）

＝東京都港区、高波淳撮影

私は小学校から高校まで私立の一貫校に通いました。でも、小学5年生の娘には、私立小学校を受験させることは考えませんでした。

夫（バイオリニストの葉加瀬太郎さん）が「学校は家から近いところが絶対いい」という信念の持ち主だったからです。幸い自宅から5分の場所に公立小学校がありました。夫は小学校から高校まで公立で、小学校は家から歩いて3分という近さでした。

通学時間が短いことは、バイオリンを練習するのに非常に良い環境で、登校前や下校後にすぐにバイオリンと向き合えたのだそうです。夫も私も、学校以外に自由になる時間をたっぷり持てるということは、子どもの精神的な成長にとって大事なことだと確信しています。

夫は3年前から、ロンドンで音楽活動をするようになり、1年の半分以上を英国で暮らすようになりました。それ以来、私たち一家は、東京とロンドンを行き来する生活が始まりました。夫と一緒に日本と英国の間を往復することにこだわったのは、家族は常に一緒にいるべきだと思ったからです。夫の仕事のために家族がバラバラになってしまうのは本末転倒です。

ロンドン滞在中は娘を現地の私立校に通わせることにしました。「世界にはいろいろな言葉や文化があって、いろいろな考えの人がいて、どれが正しくてどれが間違っているということはない」ということを娘にわからせたいと考えたからです。現在は、年に4、5回、日本の学校と英国の学校を往復するといった状態です。

娘には「どちらか好きな方の学校だけにしていいよ」と言っていますが、娘は「それはできない。両方とも楽しいから、どちらもやめたくない」と言って、二つの学校に通い続けています。両方の学校に我が家の事情を理解していただいて、欠席した授業の分は、夏休みなどの長期休暇を利用して家庭で補っています。

これは私の持論なのですが、小学5年から中学3年までの約5年間は、子どもの脳にとって「黄金の期間」だと思っています。「黄金期」の脳は吸収力が優れているだけでなく、吸収した情報を咀嚼（そしゃく）、整理し、自由自在に自分自身を操れる脳なのです。

どんなことでもいい。勉強だけでなく、スポーツでも芸術でも語学でも、自分の「得意」を自分の力で「一生の財産」にできる人生最大のチャンスです。

この時期、どんな形の、どんな大きさの器を作るかは本人次第。その器を作れるのは今しかないのだと、娘が10歳になった時から何度も話しています。この時期に身につけた知識や思考力は、一生の財産になるはずです。何もしないで放っておくのはもったいない。

この時期はちょうど中学受験、高校受験と重なります。受験の経験は、脳にとって有意義だと思っているので、娘にも中学受験をさせようかと考えていますが、東京の中学受験の実態は、見ていてつらい部分があります。毎日のように放課後から夜9時まで塾で授業を受ける。しかも、夕食も家族と一緒に食べられない。それは子どもの生活ではありません。もう少しゆとりのある中学受験のやり方はないものか、と思います。

「脳の黄金期間」は、同時に「心の黄金期間」でもあるのですから。

（聞き手・山口栄一）